

2024「冬号」



JAとよごろ広報誌

火直

か が や き

vol.221





新年のご挨拶

豊頃町農業協同組合

代表理事組合長 山口 良一

新年、あけましておめでとうございます。

組合員、ご家族の皆さん輝かしい新年を健康でお迎えのことと思います。改めてお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業運営に、ご理解・ご協力頂き、ありがとうございます。改めて感謝と御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、春先から干ばつ傾向でしたが、気温は高く、各作物の生育は順調に推移しました。

一番草の収量品質も良く、平年を上回りました。

小麦、馬鈴薯も平年を上回る収量が続きましたが、8月・9月と猛暑が続き、豆類、ビートは、収量・品質にも大きな影響がでました。

生乳生産の方も猛暑の影響を受け、前年比マイナス5%前後と、なかなか回復が見込めません。全道的な傾向であり、飼料を始め、原材料の値上がりが組合員の経営に大きな負担となっており、その影響が懸念されます。

国も対策は講じておりますが、生産現場の実態を反映したものに求めているかなければなりません。

今後の異常気象が大変心配されますが、本年も基盤整備、土作りの大切さは変わりません。町と共に進めて参ります。

本年は安定した天候に恵まれて豊穡の出来秋を目指して、役職員一丸となって取り組んで参ります。組合員、家族の皆さんの努力が報われる1年でありますように、ご祈念申し上げまして、年頭の挨拶と致します。



本年もよろしく

お願い申し上げます

豊頃町農業協同組合

代表理事組合長	山口 良一
専務理事	川口 修
総務経済常任委員長	相澤 博美
総務経済常任副委員長	宝田 博幸
理事	植村 有見
理事	松崎 文一
理事	井村 康広
理事	吉田 孝
信用担当事務	星野 隆
代表監事	按田 憲一
監事	岡崎 明良
常勤監事	和田 宏樹
参事	水上 清美
外職員一同	



令和6年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽 井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んでいましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります。行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年は、第31回 J A北海道大会が開催されます。

また、第30回 J A北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次の J A北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めするため、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、J Aグループが提唱する「国消国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



年頭にあたり



生き甲斐部
部長
津久井 清美

新年明けましておめでとうございます。
組合員、生き甲斐部の皆様には、健やかに新年を迎えられました事、心よりお慶び申し上げます。また日頃より生き甲斐部の活動にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。
昨年は新型コロナウイルス感染症も第5類移行により人の往来も活発になり予防対策も行いつつ、私たちも活動を広げて参りました。当初予定しておりました五十周年記念の研修旅行も部員各位の度重なる検討を頂きながら、楽しい研修旅行を行うことが出来ました。
また、ゲートボール大会やパークゴルフ大会、夏季研修旅行も例年通り開催することが出来、明るい一年となりました。しかし、反対に世の中では、終わりの見えない侵略戦争、テロや各地における温暖化による災害等々、次々と難題が起こる昨今。これ

らの影響により異常とも言える物価高騰が私たちの生活に暗い影を落としつつあるのも事実ですが、時代を読み取りながら、さらに明るく良い一年になるよう皆様で知恵を結集して活動を推し進めて行きましょう。新年会をはじめ、ゲートボール大会、総会と、例年同様、予定しておりますので多くの皆様の参加をお待ちしております。
今年も良い年となりますよう、皆様のご多幸、ご健康を切にお祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。

JA豊頃町生き甲斐部

部長 津久井 清美
副部長 山本 達実
外役員一同



女性部
部長
佐藤 嘉香

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。
また、日頃より女性部活動に対しまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。
新年度スタートしてまもなくの令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、女性部活動、各部会活動もコロナ前に近い活動を行う事が出来た1年になりました。まだまだ油断できない状況ながらもマスクを外し部員同士が楽しく交流する時間が増えてきた事、1つの行事も中止にする事なく行えたことをとてもうれしく思っています。

新年最初の活動としては、1月30日にすみれ部会、ミセス部会、フレッシュ部会の三部会合同交流会を予定しています。

今回は、ドローン操作を体験したいと考えています。近年では、農作業にも活用されているドローンですが、私達女性にはまだまだ縁の遠い存在です。

1月ということで、総合体育館の体験になるので、少し小規模になるかもしれませんが、良い経験になればいいなと思企画しました。たくさんの皆様の参加をお待ちしています。

私達女性部は、ご家族の皆様のご理解・ご協力のもと元気一杯活動に取り組んで参りますので、今後ともどうぞよろしくお願致します。

最後になりますが、皆様にとって幸多い1年になります事を心からお祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。

JA豊頃町女性部 部長 佐藤 嘉香
副部長 佐竹 由香利
副部長 鈴木 恭子
すみれ部会 部会長 愛澤 悦子
ミセス部会 部会長 木幡 恵里香
フレッシュ部会 部会長 石田 友香里
外役員一同



青年部
部長
鈴木 雄大

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、昨年は青年部活動に対して深いご理解と多大なるご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

昨年は5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、コロナ流行前の普段の生活を取り戻しつつ、青年部活動も約3年ぶりに制約のない通常の活動を行うことができました。7月には国際農機展が開催され各国から15.5万人が集まる中、普段見ることのない大きな機械や様々な人と交流しながら研修を行いました。小学生を対象とした食育では作物を栽培するだけではなく、昨年は出来なかった収穫した作物をその場で調理して食べる事もでき、より一層食に対する興味関心を深めてもらうことができました。

また、昨年農協圃場や青年部盟友の圃場の一部を使わせていただき、鶏ふんを活用し化学肥料を削減した小豆の栽培する試験を始めました。初めての試みなので試行錯誤しながら、農業改良普及センター等様々な機関の協力の元、仲間と親交を深めながら技術や知識を学ばせていただいています。

最後になりますが、盟友各位、関係機関各位のご理解ご協力を賜りながら今後も活動を行ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

本年も皆様の幸多き年となります様、ご祈念申し上げ、新年の挨拶に代えさせて頂きます。

JA豊頃町青年部

部長 鈴木 雄大
副部長 武内 創
書記長 川口 知紘
畑作部会長 村上 剛丸
畜産部会長 井下 慎吾
外役員一同

意見交換会 ～十勝酪畜対と農水省畜産局～

10月某日当組合会議室において、十勝酪畜産対策協議会会長の当ＪＡ山口良一組合長並びに副会長である管内組合長の４氏は農林水産省畜産局乳牛乳製品課長および農政事務所広域地方参事官ら４氏と酪農情勢に関する意見交換を行いました。

在庫消費の出口対策への負担増に加え、プール乳価と乳製品仕向けの乳価差補填の加工リスク対応などを主題に、加工原料乳成分加算単価の価値比率の見直しや季節乳価の必要性、全国協調の乳製品在庫対策の成果、副産物の市場価格の下落、配合飼料のほか資材価格高騰がもたらす影響が論題になりました。

会中、「昨今、飲用向けのマーケットは小さくなった。乳業メーカーと共有すべきは需要が国内で弱くなっている。」「生産現場の状況をしっかり消費者に伝える。」「生産のほかコスト増への対応や従業員管理等のマネジメント力など酪農家個々の経営力が問われている。」など意見が挙がりました。



ＪＡ道大会実践フォーラム 農協会議場に青年部長・女性部長が列席

11月7日本会場である札幌市のホテルニューオオタニインに山口良一組合長が大会実行委員として、並びに川口修専務、和田宏樹常勤監事が出席しました。また当ＪＡ会議室において役員並びに鈴木雄大青年部長、佐藤嘉香女性部長がＷＥＢ配信により傍聴しました。



本会は一昨年に採択したＪＡ道大会決議事項『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」』をもとに２議案『「ＪＡ運営の好循環」に向けて対話の成果を実践』『「ＪＡ運営の好循環」を支える人づくり・ＪＡ経営の強化』の達成を目的としたフォーラムです。

基調講演の『食料安全保障の強化』『次世代農業者との対話の推進』のほか、ＪＡ芽室町が『次世代農業経営者とのつながり』をテーマに農業経営者育成プログラム（研修・講座・懇談会・交流会）の実践事例を発表しました。

町内2牧場が現地視察を受け入れ 東部十勝農業改良推進協議会

11月17日に十勝東部地区（豊頃・浦幌・池田・幕別）の町、JA、十勝東部地区農業改良普及センターの農業担当職員が農業改良の推進および振興に資することを目的に、本年度当番である豊頃町で現地視察研修会を開催しました。

担当者は株式会社武隈ブリーディングファーム（代表理事 武隈英和）において『令和9年に開催のある「第13回全国和牛能力共進会」に向けた生産者の取り組み』と、株式会社Jリード（代表理事 井下英透）において『酪農を取り巻く情勢』をテーマに受講しました。

現地にて武隈代表より近年のゲノム評価の活用に伴う個体（和牛）能力増進と十勝の生産性の向上について説明する中、「十勝は市場価格では全国においてすでに一大産地であるが、地域性から生産額ベースにより畑作・酪農がメインとされ、消費者をはじめ農業関係者の価値認識が不足している。」と述べ、井下代表より建設中のバイオガスパラントを含めた近年の建設費や営農資材品高騰が及ぼす償還財源や事業



利益の確保等の説明があり、「現行の乳製品単価や副産物の市場価格では採算が合わず制度等の改善が喫緊の課題である。この状況が続けば10年後には道内の酪農業がなくなる可能性も有り得る。」と述べました。また、両代表とも「まず地域の農業関係機関の担当者には専門（酪畜業）分野の知識向上を求める。また、いっそうの営農に対する協力が不可欠である。」と述べました。

「みんなでモー1杯」動画撮影 酪農王国十勝



乳製品の消費が落ち込む冬季に消費拡大の取り組みの一環として、11月15日に動画撮影を行いました。

撮影には豊頃酪農振興会から相澤和幸会長と森川聡さん、川口修専務をはじめ農協職員が参加しました。

酪農王国十勝管内の関係者が団結して取り組む姿勢を打ち出しつつ、

農林水産省「牛乳スマイルプロジェクト」へのリンクや報道機関に持ち込み全道、全国へ情報発信し、減退する乳製品の消費の回復を目的とします。

動画は後ほど農協通信またはホームページにて掲載予定です。お楽しみに！



生き甲斐部50周年記念旅行へ ～50周年記念旅行を終えて～

生き甲斐部



朝夕の寒さも身にしみる12月に入って私たち生き甲斐部の50周年記念研修旅行が4日の早朝、農協事務所を発ち、帯広空港より羽田空港経由で、鹿児島、奄美大島へと飛び、南の季節感を肌で感じてきました。今頃の気候では、西日本は特に暖かい様でした。また、傘の必要な日は1日ぐらいで、とても穏やかな日に巡り合った様です。

鹿児島の二泊は、西郷隆盛・大久保利通といった幕末から維新との関わりが深い人達がたくさんおり、日本の近代化に関わった人々が大変多い事に歴史の深い重みを感じました。

どこから見ても小高い切り立った山々がそびえ、取り囲むように平野があり、農業、畜産が古くから続いている様子や、全国和牛共進会が開催されただけの基礎が出来ているのが見て取れました。それから、すでに過ぎ去った過去の激動の時代の日本を支えた地域の様にも思いました。戦時中の特攻出撃の前線基地等々の戦争遺産では、生々しいものを感じ、昨今の平和の尊さを改めて実感しているところです。

奄美大島では名瀬漁港の傍に宿をとり、2日間島めぐりをして、夜は島料理を味わいました。4日目の夜は郷土料理をいただきながら店の女将さんとお孫さんによる生の島唄に聞き入り、最後の夜のひとときを楽しみました。

南の島々を見ているとテレビ等でみる景色そのものでした。また、今回の旅をスムーズに遂行して頂いた旅行会社の添乗員の方、そして農協、事務局の皆様には、出発時、帰着時共にお世話になりました。全員元気で帰ることが出来ました。どうもありがとうございました。

【生き甲斐部 部長 津久井清美】



異業種スポーツ交流会開催!



11月11日、農協青年部・農協職員組合の共同開催によるスポーツ交流会を開催し、町内団体から総勢50名が参加しました。

豊頃農協川口修専務理事より祝辞をいただき盛大に開催した本交流会は、大縄跳び、ぐるぐるバットリレー、綱引き、選抜リレー、ドッジボールの5種目で競い合い、結果は武内創さん（農協青年部）率いる青チームが見事優勝しました。MVPには山崎諒さん（農協青年部）が選ばれ、大盛り上がりそのまま懇親会へ。

懇親会でも終始笑いが絶えず、各団体間の交流がますます深まり、来年の開催が大いに期待される交流会でした。



JA十勝青年部大会

11月27日、ホテル日航ノースランド帯広にて開催の第48回JA十勝青年部大会に部員11名が参加しました。

十勝大会は十勝管内の盟友約600名が一堂に会する唯一のイベントで、青年の主張や各青年部の作成した30秒間CMコンテスト、講演会、純農Boyコンテストを行います。

青年の主張はJAめむろ青年部の沖元慶大さんが「青年部の可能性」と題し、青年部活動を通じて活動を広げることでの地域貢献や地域の活性化について発表を行い、最優秀賞を受賞しました。

講演会は「脳の多様性（ニューロダイバーシティ）」と題し、作業療法士の菅原洋平氏を講師に招き、脳のタイプによる伝え方やコミュニケーションの手法などを中心にお話をいただき、今後の生活において役立つ講演でした。



その後、全体としては4年ぶりとなる懇親会を行い、アームレスリング大会では各単組から力自慢の盟友たちが熱戦を繰り広げました。豊頃青年部からは山崎諒さん（十弗）が出場し、1回戦を見事に快勝しました。2回戦は惜敗しましたが、その戦いぶりに青年部一同大盛り上がりでした。

久々の懇親会開催もあり、盟友同士の絆が深まった1日でした。

青年部 管外研修

12月8日～9日にかけて管外研修を開催しました。今年度はエスコンフィールド北海道、クボタアグリフロントにて視察研修を行いました。

エスコンフィールド北海道では、現役のファイターズガールの施設内案内により、普段は入ることのできないベンチ裏やロッカールームから、グラウンドやブルペンなど実際に選手が見ている光景を体験しました。

クボタアグリフロントの見学では、シアターエリアにて食と農に関わる映像を見て、生産者から消費者に届くまでの過程においての人々の関わりを改めて感じ、屋内栽培エリアでは、アスパラガス、トマト、いちごの屋内栽培を視察。人と野菜が心地よい空間になるように室温管理がなされているなど、最先端のスマート農業を体感しました。

視察先では、部員の真剣な眼差しや興味津々に話を聞く場面が多く、部員にとって有意義な研修でした。



お久しぶりの『となりのウエディング～J A編～』です。皆さんにご報告を兼ねてインタビューしました。

今回の新婚さんは、佐藤稜輔・彩夫婦です。ふたりは農協で知り合い、お互い同年齢で会話の機会が多くなり、令和4年3月に交際をスタートし、1年8ヶ月の交際期間を経て令和5年11月27日にめでたく入籍しました。

Q お互いの第一印象と好きなところは？

A 稜輔さん「かわいい」「素の自分でいられる」
彩さん「爽やかスポーツマン」「一緒にいると落ち着く」

Q 共通の趣味は？

A キャンプ、バスケット観戦

Q 二人の夢は？

A 生でNBA観戦

Q どんな家庭を築きたいですか？

A 丸く穏やかな家庭

今回、佐藤夫婦からたくさん楽しいお話を伺いました。

休日は、キャンプやYouTubeのキャンプ動画を見て過ごし、今後行ってみたいところを尋ねると、「富士山を眺められるキャンプ場を訪れたい」と大のキャンプ好きなふたりです。共通の趣味があることはとてもいいですね！ふたりとも本当に仲が良く、お互いに尊敬しあったとても良い関係だと感じました。末永くお幸せに！



農産課

金融課

佐藤 稜輔 さん・彩 さん

(旧姓：東野)



第56回 JA北海道女性大会・ 北海道家の光大会

女性部



11月9日～10日、札幌プリンスホテルにてJA北海道女性大会・北海道家の光大会を開催し、全道の女性部員・事務局等総勢約400名が集まりました。当農協から佐竹副部長・鈴木副部長の2名が参加しました。

1日目は、家の光記事活用体験発表会が行われました。次に僧侶・作家 草薙龍瞬氏による『迷い・ストレスから自由になる心の持ち方』講演会を聞き、夜は懇親会が開かれ担当JAが色々工夫をこらし、皆さん楽しんで様子でした。

JA十勝地区女性協議会 70周年記念式典

12月5日～6日十勝幕別温泉クランヴィリオでJA十勝地区女性協議会70周年記念式典を開催し、当組合から7名が式典に出席しました。

式典では歴代の会長へ感謝状贈呈があり、川口亜矢子さんが第13代会長（令和元年・2年）を務め感謝状が贈られました。

式典終了後、祝賀会が行われ、各単組から特産品を持ち寄りクイズ大会を行いました。また、十勝地区女性協議会現役員さんによるアトラクションの披露があり会場は大いに盛り上がりしました。

2日目は、記念講演としてシンガーソングライターの半崎美子さんが、女性部員さんの心に沁みる歌を聞かせてくれました。



の窓 大津小学校 食育授業

11月13日、女性部三役・農業委員女性議員3名の計6名による、大津小学校食育事業に参加しました。

全校生徒11名（2名欠席）と乳製品を使った料理（炊き込みコーンバターライス・シチュー・じゃがりこを使ったマッシュポテト風）3品を一緒に調理しました。1時間と短い時間で子供たちと楽しく調理実習ができるかは何かと悩みましたが、じゃがりこを使ったマッシュポテト作りが子供たちに大好评。じゃがりこを牛乳に浸したのを一生懸命潰している姿がかわいかったです。けがもなく無事調理実習を終えました。



ミセス部会 日帰り研修

11月14日、ミセス部会（部会長木幡恵里香）は、厚岸・釧路方面へ日帰り研修に行きました。今回は少し遠くに足を延ばし厚岸のコンキリエで昼食をとりました。牡蠣が大きく育ってないとニュースで流れた時は食べられるのかな？と思いましたが立派な牡蠣が目の前に並んでいたので一安心しました。牡蠣の苦手な人でも大丈夫なようにホタテ・ホッキと海鮮をみんなで堪能しました。次に釧路の博物館に行き、アイヌ文化にふれました。動物の剥製が数多く置いてありました。最後に釧路之助に向かい家族にお土産と晩御飯のおかずにと皆さん買い物を楽しみました。

例年では農作業が落ち着いている時期でしたが、今回はまだ忙しい時期ということもありましたが、日ごろの疲れが癒せたのではないのでしょうか…。



フレッシュミズ部会 日帰り研修

12月6日（部会長：石田友香里）、明治なるほどファクトリー十勝の工場見学へ行きました。参加人数が6名と少なかったですが、ランチに芽室町の大野ファームに行き牛肉料理を食べ、午後から工場見学をしました。明治工場では、チーズの雑学を担当者から聞き、チーズができる工程を見学する予定でしたが、たまたまチーズを作る工場が休みで生クリームを袋詰めしているラインが稼働していたのでそちらの方を見学しました。工場見学を終え、チーズ（カマンベールチーズとプレンチーズ）の食べ比べをしました。お土産をいただきそれぞれ帰路につきました。



ミセス部会 スポーツ交流会

12月8日（部会長：木幡恵里香）、豊頃町総合体育館でフロアーカーリング大会を開催しました。参加人数19名。くじ引きで5チームに分かれ、トーナメント戦で戦いました。指導者からレクチャーを受け、30分間の投球練習を行い、いざ大会。1位から3位まで賞品を用意してあると伝えると皆さんのやる気が倍増。投げ方一つである点数が大きく変わるフロアーカーリング。チーム対抗なので作戦を立てながら「こう投げて、あれにぶつけて、こう飛ばして」と色々な作戦を練ってからの投球。実際はうまくはいかないものです。一喜一憂しながら対戦し、上位3チームは豪華景品を獲得しました。



職員 防災訓練



11月21日に本組合消防計画に基づき職員を対象に防災訓練を行いました。講師には豊頃消防署予防係3名が来所しました。自動火災報知設備による「火災位置の発見」、被害軽減のための「初期消火」、消防への「通報」等の火災への対応の講義と、初期消火の訓練として本所に設置の消火栓2か所で操法を学び、また、屋外では参加職員のうち10名が仮の火元に実物の消火器を用い放射を体験しました。

10月25日～31日にかけて町内の酪農家からの預託牛（乳用牛）を湧洞牧場・二宮牧場より下牧しました。

5月の入牧時およそ690頭の乳牛は期間中に入退牧を行い、一斉下牧時にはおよそ509頭でした。入牧時には小柄だった牛たちも、広大な牧場で牧草をたっぷり食べ、見違えるほど大きく成長しました。これから各酪農家の元で生乳増産のために大活躍してくれることでしょう！

また、本年度より試験的に約60頭の入牧を行った黒毛和牛は、期間中に入退牧を行い、一斉下牧時には32頭でした。青草を摂取し、大きく成長した牛たちが健康な子牛を出産してくれることに期待です。

共同牧場 一斉下牧



今回の表紙を飾っていたのは、豊頃小学校4年生の吉村丈くん、2年生の吉村千桜ちゃん兄妹（吉村友輔さん）です。最初は緊張しながらも笑顔いっぱい



にご協力いただきありがとうございました。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年はコロナが5類に移行し、コロナ前の日常が本格的に戻る年となりました。

様々なイベントも再開され、色々と反省の多い一年となりましたが、本年は反省を活かして改善できるよう精進致します。皆様におかれましては寒い日が続きますがご自愛ください。企画係 T.M

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は体調を崩しやすい年でした。体調を崩しては、どんなことも楽しむことはできません。辰年が健康な1年であるために以下のことを心がけようと思います。

- ① くさん栄養のあるものを食べて
- ② かれたときはねる
- ③ う頑張っても太る正月は
- ④ つ内外問わず、運動に励む

みなさんも健康で充実した年をお過ごしください。素敵な1年になりますように。企画係 T.S